

和歌山県 印南町御中

「新・地域再生マネージャー事業」

(外部人材派遣－初期対応型－)

結果報告書

印南町
ヘンタイ
前夜!!

「おたまじゃくし」から「かえる」へ

平成27年1月14日(水)～16日(金)

一般財団法人 地域総合整備財団<ふるさと財団>

外部専門家

中島 淳 (フォーシーズンズ代表:地域再生マネージャー)

清藤 奈津子 (特定非営利活動法人 山里文化研究所理事長)

事務局 みずほ総合研究所 卯坂 潤一郎



陸に上がる準備は整いました。
皆で「編隊」を組んで臨む時のようです。

報告内容

1. 今回の視察内容報告

2. 外部専門家 中島淳氏(地域再生マネージャー) ご提案

3. 外部専門家 清藤奈津子氏 ご提案

参考資料

今回の視察内容報告

視察スケジュール

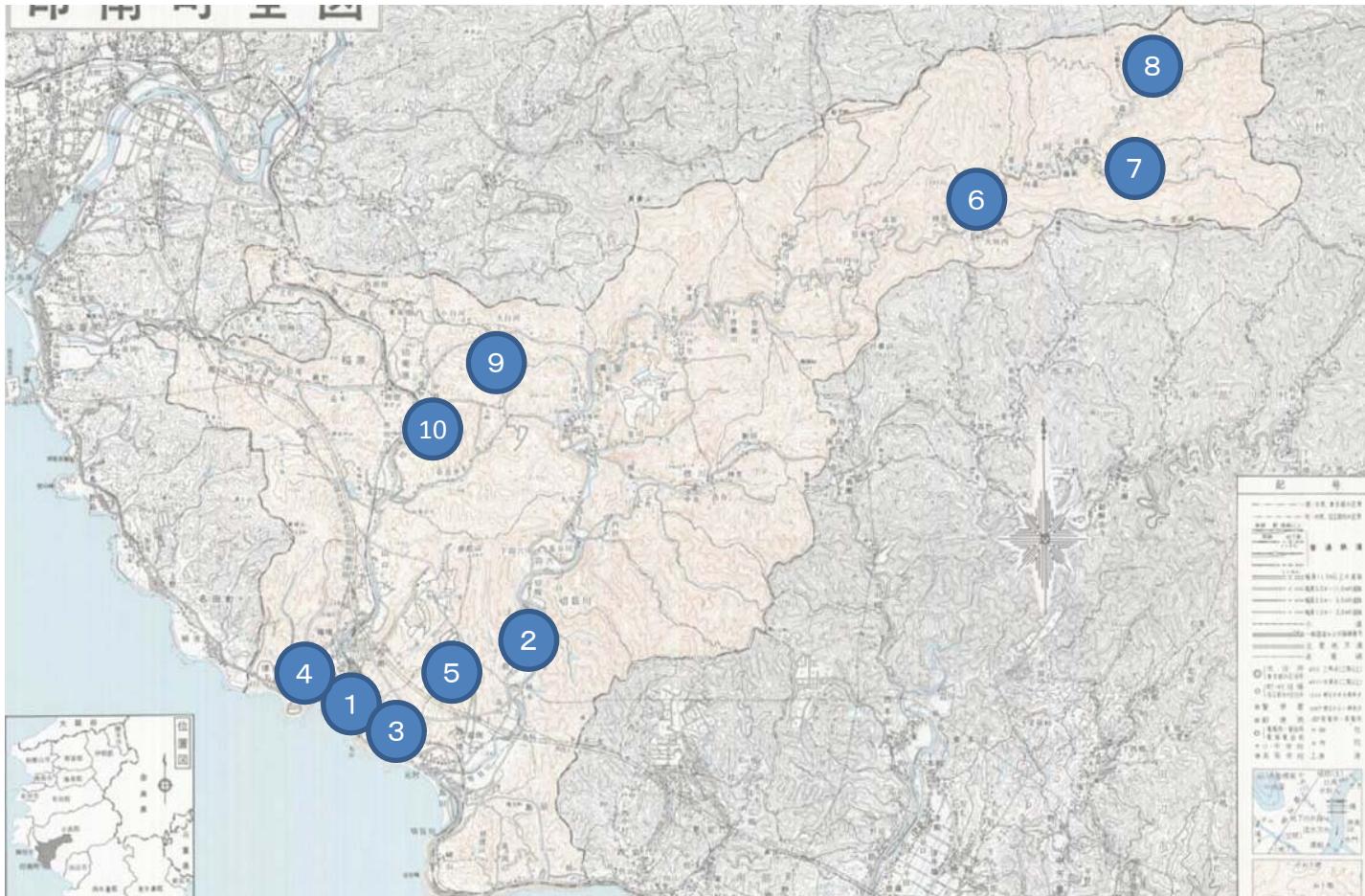
● 1日目

- 【ヒアリング】
- 印南町長
 - 地域ガイダンス
[印南町産業振興協議会、印南町活性化実行委員会
印南町観光協会、生活・営農改善グループ連絡協議会
いなみかえるの宿]
- 【視 察】
- 紀州日高漁業協同組合印南町支所
 - 共栄花の里産品所
 - 切目王子

● 2日目

- 【視 察】
- フレッシュマート
 - 印南サービスエリア 日高観光物産センター
 - 奥真妻活々倶楽部
 - 川又のわさび田
 - 川又観音
 - サンシャイン牧場
 - ふる里産品所“ふれあい”
 - かつお節発祥地に係る各種資源

視察工程



- ① 紀州日高漁業協同組合印南町支所 ② 共栄花の里産品所 ③ 切目王子
④ フレッシュマート ⑤ 印南サービスエリア ⑥ 奥真妻活々倶楽部 ⑦ 川又のわさび田
⑧ 川又観音 ⑨ サンシャイン牧場 ⑩ ふる里産品所“ふれあい”

主な視察先(1)

紀州日高漁業協同組合印南町支所



切目王子



共栄花の里産品所



フレッシュマート



主な視察先(2)

印南サービスエリア日高観光物産センター



川又のわさび田



奥真妻活々倶楽部



川又観音



主な視察先(3)

サンシャイン牧場



かつお節発祥地に係る各種資源(1)



ふる里産品所“ふれあい”



かつお節発祥地に係る各種資源(2)



ヒアリング結果(1)

●【印南町長】

発言主旨など	・今回の初期対応型では地域外の方から魅力・課題をポイントアウトしてほしい。
地域の特徴や課題など	・印南町は細長い地形で、海岸部・中間部・山間部で農作物も全く変わってくる。 ・衰退傾向にあるものの、山・海も資源が豊富である。都市部からのアクセス性も良いため魅力的な地域と言われる。その一方で、地域住民に危機感がないという面もある。

●【印南町産業振興協議会】

活動状況など	・町内の各種団体に構成されており、今年度設立され、様々な取組を始めようとしている。 ・かつお節発祥の地ということを町おこしに活用できないか検討しているが、誰もかつお節を生産していないという課題もある。
地域の特徴や課題など	・後継者の不在は大きな課題である。 ・現在は印南のSA(サービス・エリア)を拠点に物販の拡大、そこから商店街へ来てもらう誘因にしたいと考えている。 ・ゴルフ場が3つあり、国体でもゴルフ会場として利用されている。ゴルフ場にはそれなりの人数が来るが、土産などのお金を落としてもらう動きに繋ぎたい。

ヒアリング結果(2)

●【印南町観光協会】

活動状況など	<ul style="list-style-type: none">・交流人口の増加を基本的な考えとして活動を進めている。・印南町のファンを増やし、印南製品の販売量の拡大及び販売金額の増大を図り、それに伴い地域住民の所得向上を図ることが大前提である。
地域の特徴や課題など	<ul style="list-style-type: none">・交流人口の増加に向けた具体的な方策を模索しているが、現状では十分な展開が出来ていないのが現状である。・印南町の多数ある地域資源をPRしていければと考えている。

●【印南町活性化実行委員会】

活動状況など	<ul style="list-style-type: none">・地元各種団体や漁協、JA、地元住民が構成員となっており、印南町を盛り上げるイベントを実施している。・集客目的ではなく、自分達も楽しみ、元気な印南を実現する目的で実施している。・今まで地域内で実施できていなかった横の交流がこの委員会で実現できている。
地域の特徴や課題など	<ul style="list-style-type: none">・昨今はイベントが周知されており、10,000人規模のイベントとなって開催されている。今後は外に向けてのPRを行うことを模索している。・漁協周辺は民間住宅を含むエリアであるため、住民に迷惑がかからない会場があれば色々な創意工夫を図りたい。

ヒアリング結果(3)

●【いなみかえるの宿】

活動状況など	<ul style="list-style-type: none"> ・農家民泊を受け入れている。H23に41名、H24に260名(国内123名、国外137名)、H25は339名(国内150名、国外189名(台湾・マレーシア))を受け入れた。現在延900名受け入れた。今年度は補助金なしで取り組むが、リピーターもできている。 ・プログラム拡充をめざし2か月に1回検討する場を設けているが、「安全」を最優先し、反省会も毎回実施し、問題点などを共有している。 ・海外の方とはLineやFacebookでの交流も活用している。
地域の特徴や課題など	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題としては、大規模学校を受け入れられる体制構築と印南町の広報活動が挙げられる。ワーキングホリデーの活用もハードルが高いが検討している。 ・PR方法は道の駅にも置いてもらっているパンフレット(日本語版・英語／中国語版)や絵葉書等である。出迎えの際のハッピーやノボリも実施している。

●【生活・営農改善グループ連絡協議会】

活動状況など	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農作物を活用して料理を作っている。 ・加工商品を作って販売していきたい。
地域の特徴や課題など	<ul style="list-style-type: none"> ・会長は2代目として最年少で引き受けたが、会長はしばらく変更していない。にもかかわらず、最年少は継続しており、年齢構成は課題の一つである。 ・料理を作るグループの数も30超あったが、今では5グループになってしまっている。 ・最終的には地元の農作物を活かした加工品を販売してお金を落としてもらいたい。

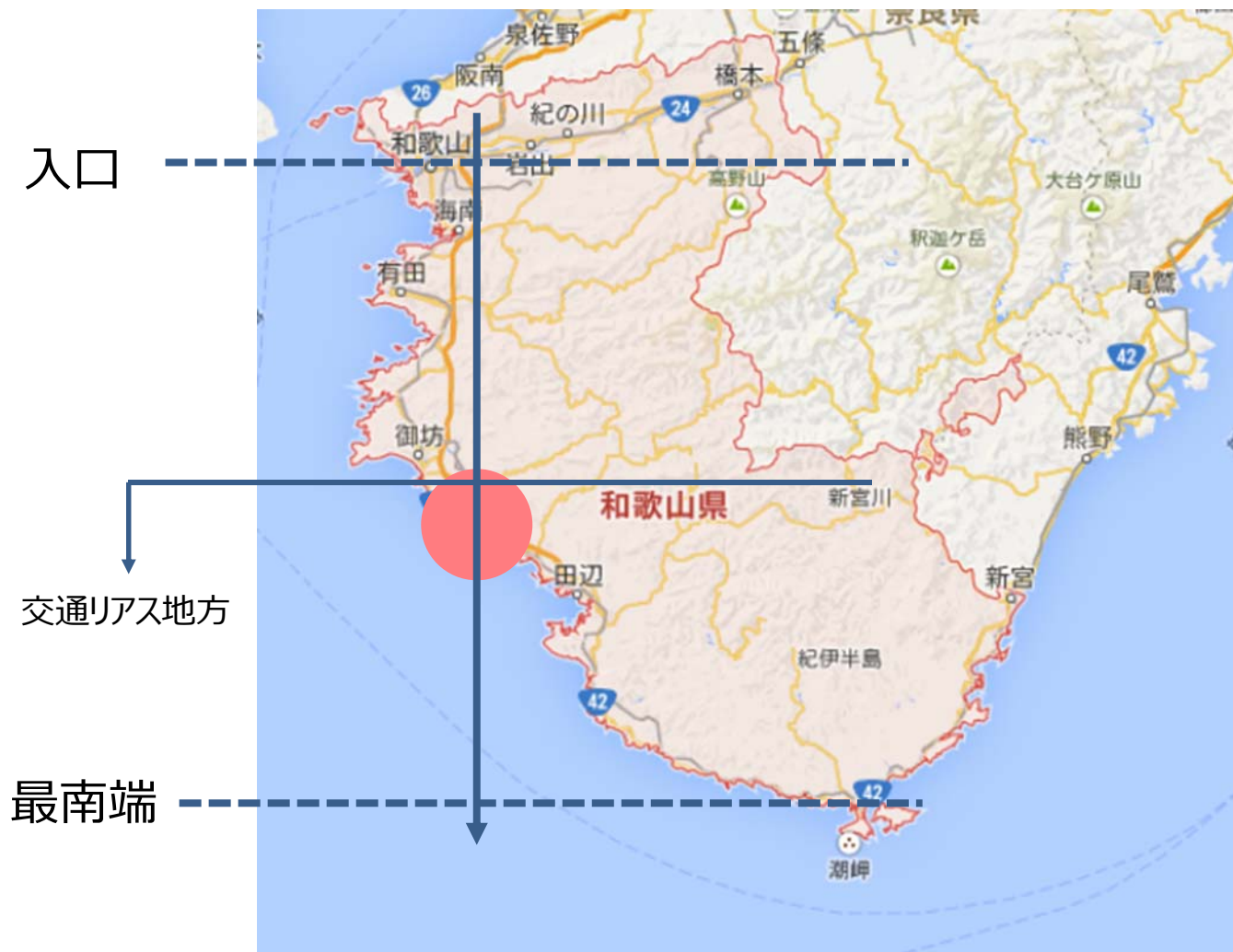
診断報告

外部専門家より

(株)カルチャーアットフォーシーズンズ
代表取締役 地域再生マネージャー
中島 淳氏ご提案

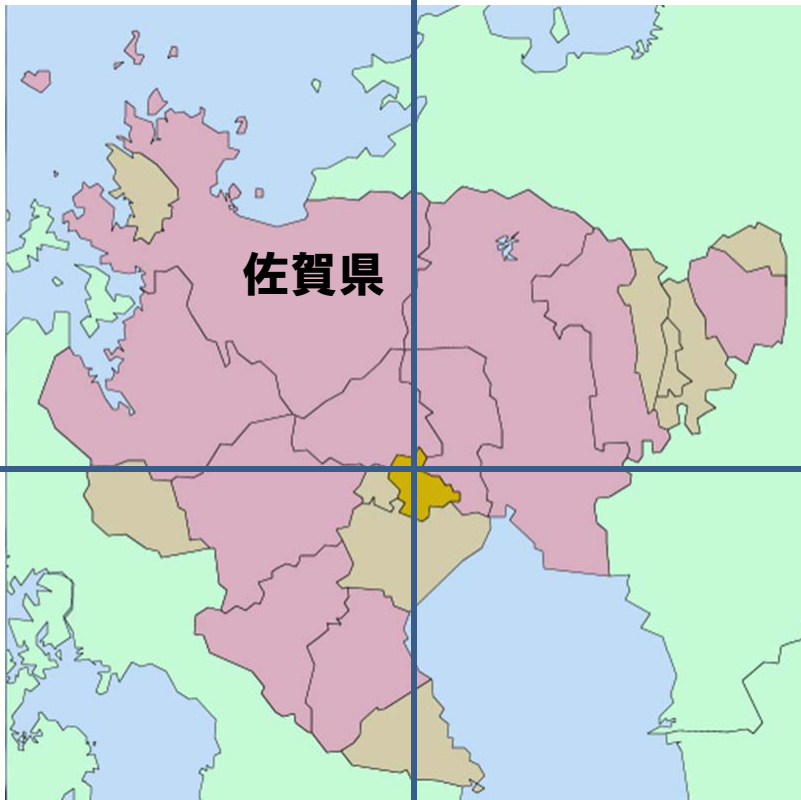
プロローグ

印南町は和歌山と串本との「へそ」に位置しています。
おだやかな直線交通が印南町（日高）以南でリアスになります。





**いきなりですが、
「かえる」でまちづくり
のおはなしです**



【佐賀県江北町の場合】

佐賀県の真ん中（へそ）ということで、地元シンボルのかえるを「へそがえる」ビッキー（♂）としてイメージ化。

お相手を募集し、ピンキー（♀）として町の公式行事として結婚式まで実施。

日頃の暮らしの中に溶け込んでおり、町民に「佐賀の真ん中」という意識が芽生えています。
立地条件がよく恵まれた地域ながら、新しい多くの取り組みが始まっています。





若者たち（都会からの移住者たち等）が空き店舗、空家の活用に取り組み始めています。

空き店舗がまちのママたちの集まり場となり、高校生のカフェとなり、これまでにない全く新しい動きが生まれています。

空き店舗がある地区が江北町（佐賀のおへそ）の更に真ん中にあることから、「おへそのおへそ」というネーミングで親しまれています。



「予想」しなかったことが、動くことでいろいろな化学反応を起こして、おもしろいことが生まれています。

【佐賀県 江北町 空家活用】

■ 町内外有志によるまちづくり会議（1回/月）



■ 空家を活用して高齢者サロン開設（協力隊対応）



■ 空き店舗改修で25年ぶりにパン屋さん新規開業



■ 空家を活用して放課後児童クラブ開設（改修は手作業）



■ 空き店舗改修で高校生カフェ開設（1回/月）



■ 高校生カフェの無い時には協力隊の活動基地 & 交流スペース



1. 今回、感じたこと、お伝えしたいこと

これからは、全ての活動は人口減少抑制に帰結していくことを目的にすることが求められます。

人口減少を抑制するには、たった2つの方法しかありません。

そこに住む人の中で人口を増やす＝子どもをつくる こと

外部から人を呼ぶ こと

外部から人を呼ぶ ということ

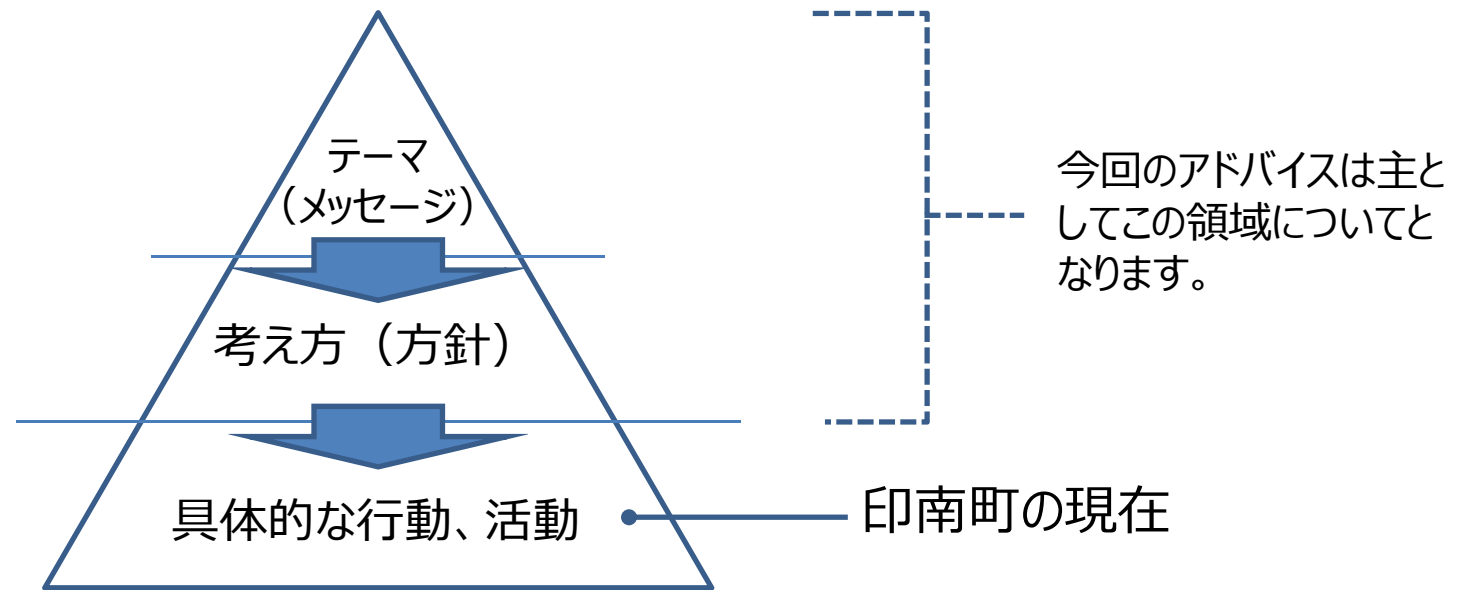
～意志としてそうすること～

実は今や「若者たち」の方が動きが機敏で、情報に敏感。納得できそうなこと、地域が向かう方向に共感できると、結構多くの者が動きます。

<若者たちがその地域に行こう、住もうと思う要素>

- その地域が明確なメッセージを持つこと。
- その地域の人たちが同じ方向で意識を持つこと。
- ちゃんと受け入れる意思を共有すること。
- 一緒に暮らし、取り組みに臨もうとすること。
- 仲間がいる（いそうな）こと。

これらのことがちゃんと見える、伝わるように
地元が意識して活動するのが求められます。

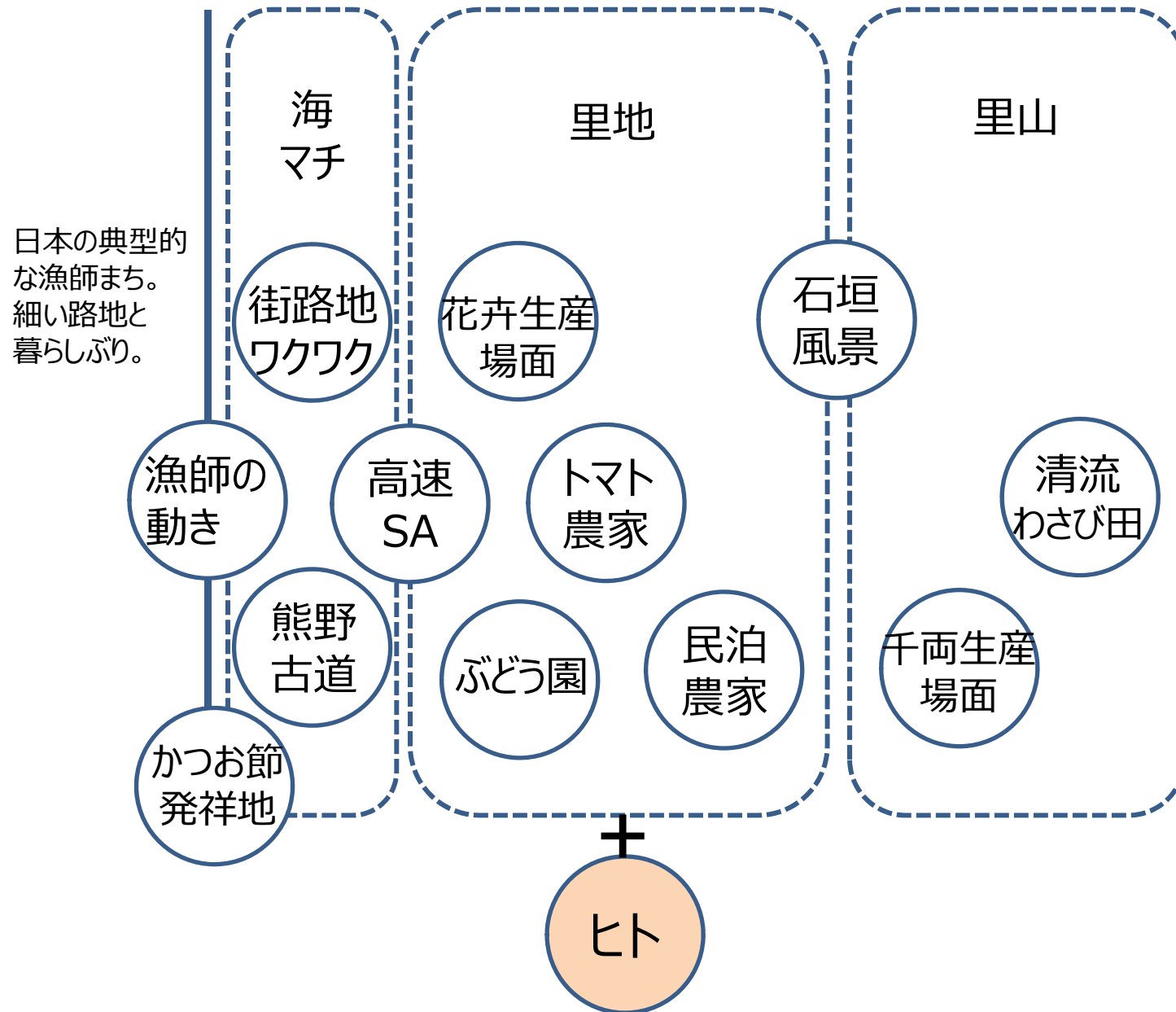


印南町には多くの思いを持った活動がありますが、個々が別々に動き同じ方向を共有していないので、「地域力」が発揮できていないようです。

**人口対策の極意は
「総力戦」です。**

2. 総力戦に向けて

総力戦の武器(顕在化しているもの) 本当はこの5倍くらいあるはず



■高速道路の延伸に伴い、「通過点」となることを避けるために 総力戦で臨む取り組み例～印南町と共通点の多いケース～



平成20年度ふるさと財団短期診断事業から開始

まち全体がサービスエリアタウン (SAT)構想の可視化 一部例

S-MAP
須崎サービスエリアタウン

須崎では、まち全体がサービスエリアタウン(通称SAT)に
取り組んでいます。土曜日(Saturday)は、須崎SATの日として、
まちなかでさまざまなサービスをおこなっています。

土曜日は
S-MAP持って
須崎へGo!

お大師通り編

お大師通り ACCESS MAP

須崎SAT dayへのお問い合わせは
須崎市企画課
〒785-8601 高知県須崎市山手町1番7号
Tel. 0889-42-5691

お大師通り

須崎SAT dayへのお問い合わせは
須崎市企画課
〒785-8601 高知県須崎市山手町1番7号
Tel. 0889-42-5691

仲良し3人組の土曜日は
いつもこんな感じ。

「最近、須崎がアツイみたいよ。」
そう言い出したのは、
くいしんぼうの、まこさん。
どうやら美味しいものがあるらしい。
「まったりしてみようか!」と、
ゆるめのりさんと、
好奇心旺盛なアイト大好きライカさんも、
すっかり乗り気。
高知から車で40分くらい、
ちよろどいいお気候トリップ。
まこのご機嫌、あんこも連れてでの、
須崎SAT day。

お大師通り MAP

須崎SAT dayへのお問い合わせは
須崎市企画課
〒785-8601 高知県須崎市山手町1番7号
Tel. 0889-42-5691

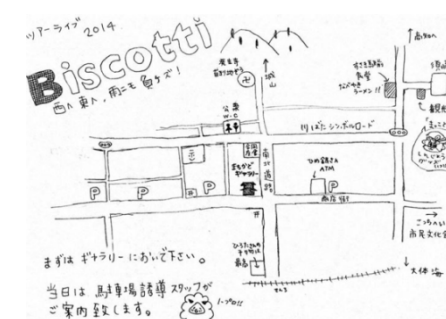
お大師通り

須崎SAT dayへのお問い合わせは
須崎市企画課
〒785-8601 高知県須崎市山手町1番7号
Tel. 0889-42-5691

お大師通り

須崎SAT dayへのお問い合わせは
須崎市企画課
〒785-8601 高知県須崎市山手町1番7号
Tel. 0889-42-5691

移住若者（地域おこし協力隊等）たちによる空家活用で新たな人の対流づくり



3. 取り組みの方向(草案)

INAMISM
イナミズム

どちらかと言うとやや
保守的。でもやさしく、
おおらかな風土。

この気質にほんの少し
だけ「動く」という意思を
加えること。

それをここではイナミズム
INAMISMと呼びます。

INAMISM 1 (まずはこれから)

関係者が同じ方向を向くコンセプトづくり作業から ～ちゃんとワークショップ～

しっかり確認：例えば

- それぞれがお互いのことをどれだけ知っているか。
 - どんな5年後の印南町をイメージしているか。
- がんばっている人は何をしているかを知っているか。
(例：生産高TOP 5を研究する)
- 一番活発な動きをしている地区は何を大切にしているのか。
 - 民泊する外国人は何を求めているのか。

資源の確認や活動の把握に留まらず、
わかったことを「どうやって」コンセプト（テーマ）
としてカタチにするのか。

自分は何ができるのかを明確にしましょう。

INAMISM 2 (例えばこんなプロジェクト)

SAをまちの顔にするぞプロジェクト

SAを「まちの顔」にするということは、単に売上向上を目標にすることではない。また運営事業者のみで臨むと達成できない。売上向上は「結果」となるような総力戦を展開しなければならない。



①：紀ノ川SA

- ・和歌山北IC最寄り、和歌山県への入り口

②：吉備湯浅PA

- ・紀ノ川SAから30.6km：20分

③：印南SA

- ・紀ノ川SAから58.9km：43分

④：白浜町中心部

- ・紀ノ川SAから約86.1km：約70分
- ・日本三古湯：白神温泉を有する観光地
- ・今後は阪和自動車道の延伸で近隣地域まで高速が繋がり、アクセス性が向上（予想）

房総半島の良好バトル(そこが地域の顔だ)

富津館山道路

東京から<50分>



富山HO
「富楽里」

<10分>



終点
富浦

<3分>



道の駅とみうら
「枇杷倶楽部」



魚の直売市場



その場で捌き、加工



野菜の直売市場



域内牧場製品売場



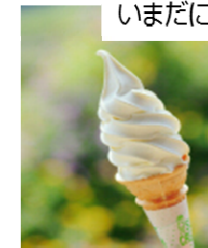
その日の魚料理



その場で惣菜提供



2000年道の駅大賞受賞
地元との接点づくりNo.1
いまだに進歩中。

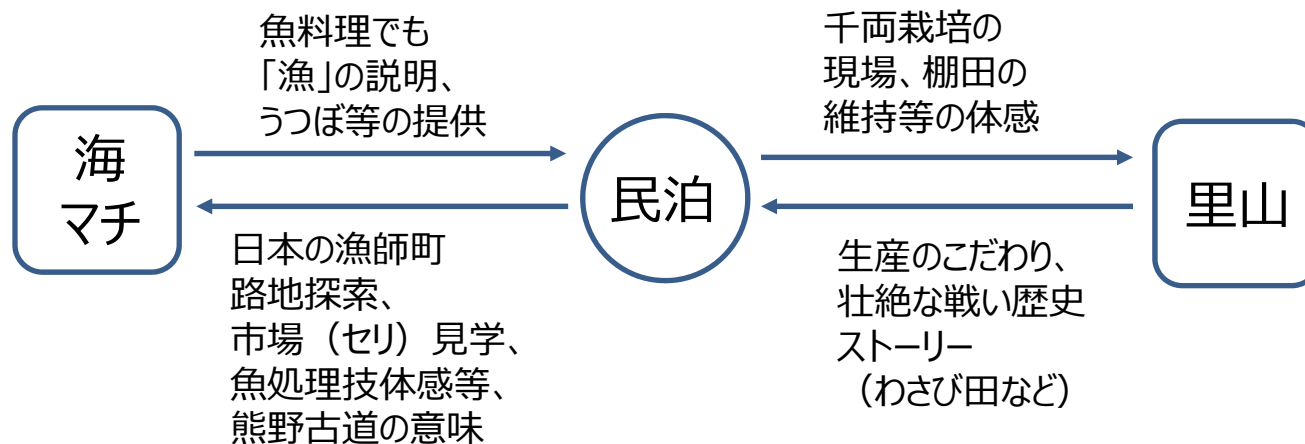


極めて近距離ながら10年間地元の顔として
両施設ともに絶大人気な訳は。

INAMISM 3 (例えばこんなプロジェクト)

本気のインバウンド(海外からの受け入れ) 若者・大人の受け入れプロジェクト

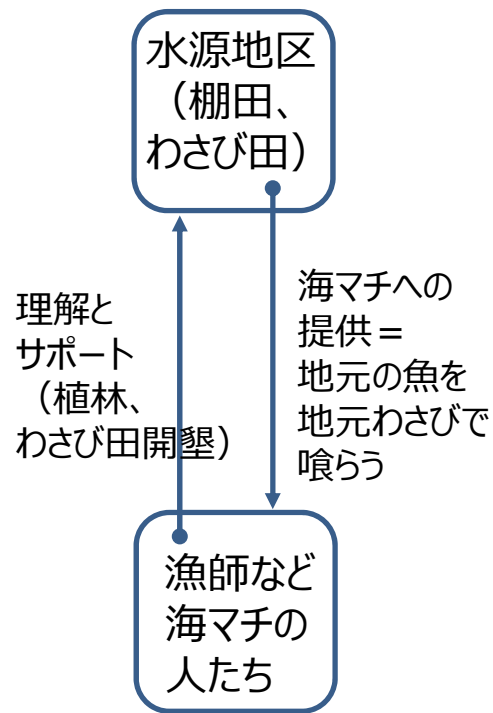
外からの受け入れは、宿泊事業者だけの展開では単なる「宿泊体験」となる。
この地を理解し、取り組みに納得し、人を知ることによって初めて「印南町」を認識し、リピートや告知拡散につながる。



海マチ景観 暮らしの中に入り込む空間と時間こそが体験



INAMISM 4 (例えばこんなプロジェクト)



山に行ってみようよ漁師さんプロジェクト

良好な漁場には、良好な川が流れていると言われます。「なぜその魚はおいしいのか」を説明しやすい要素です。実際、高知県では川の清らかさと太平洋との関係をうまく伝えているケースが見られます。

海の関係者が、地元の水源地を訪ねるのは今や多くの地域で見られ始めています。印南町の水源地には「わさび田」があります。守るにも開墾するにも少人数で一苦勞しています。漁師のサポートによって何かが生れないでしょうか。

漁師が山に行く行為が重要なのではなく、そのような取り組み自体が理解者、賛同者を生み、参加者となり移住につながる。

有名な実例：宮城県気仙沼市 (唐桑町)の「森は海の恋人」活動

牡蠣漁師さんの植林活動が
大きな化学反応を生み出しています。



INAMISM 5 (例えばこんなプロジェクト)

明日への希望(先進的取り組み) ～奥真妻活々倶楽部の挑戦～

地元の暮らし維持のサポート。
例えば買い物支援等は全国的な取り組みになりつつあります。
取り組み自体が補助（行政）に依存するケースが大半な中、
真妻地区では「**主体的に地元発意で始まった**」という。

ボランティア（無償）関与は続きにくいと言われていますが、関係者の次の一言が決定的です。

「**今無償関与を続けることは決して楽なことではないが、いずれ自分たちも歳をとり動きづらくなる。その時に次のサポート体制が続いているように今をがんばる**」

これこそがINAMISMではないでしょうか。

特定非営利活動法人
山里文化研究所理事長
清藤 奈津子氏ご提案

印南町を見て 1

- おいしい郷土料理(生活・営農改善グループ
あじさいの会)
→外にもアピールできる大切な資源
- 梅の花咲く景色はすばらしい
→ブラッシュアップすれば宝になる
- 働き者の町。農業で頑張っている⇔ほかのこと
をする暇がない。
→少しだけ考える時間を、しかもみんなで
- 印南かえるの宿 意欲的な人が頑張っている
→ありふれたことを大切に、「印南町の普通
の暮らし」をもっと多く伝えることができる



印南町を見て 2

● 史跡・神社

一つ一つがすばらしい 神様がいる

→点を面にすればもっと魅力が生まれるだろう

空間的につなげる、次世代につなげる

● 奥真妻活々倶楽部

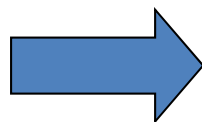
切実さから生まれた真剣な取り組み。人と人との助け合いがベースにある。

→これから必要になるだろうこと 未来の姿



違う立場の人が、みんなで話し合う場を持つ

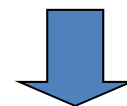
- 資源に恵まれた暮らしやすい町
- 海に向かって開けた明るい町
- 自然の脅威と隣り合わせの町
- 一見、何も困ったことはない



このままだと
大変なことになる



- これからもここで暮らし続けると
いう覚悟をするとき
- どうしたらよりよくできるかという
問題意識を共有



みんなで話し合う場を持つことが必要



より良く知り、伝えるために

- 「印南町の魅力をこう打ち出そう!」、「印南町はこの方向で行こう!」
全体をまとめる一つの分かりやすいテーマを **みんなで考える**
 - 印南町の資源をすべて盛り込んだ分かりやすい本(のようなもの)を作る
 - 地域の資源(物語)をみんなが愛と誇りを持って語れるようにする
 - 地域資源をつないでいる背景を知り、伝える→印南町のストーリーが表現できれば
- * 魅力は何か? 資源は何か?町民の目線だけでは発見は難しい**
名所旧跡になりがち。ヨソモノの力を借りることが必要



1つ1つの地域資源に物語がある

例 わさび田の物語

- 4代目 130年前から 石積みが残る
- 山は杉林に
- 昭和28年に災害で壊滅
- それでもわさびにこだわり続けた2代目
- 子どももわさびを背負って和歌山まで売りに
- みんながわさび栽培をやめた時代があった
- 2011年の台風で7枚のわさび田がほぼ壊滅
- 家族で土砂を掘り起こす
- パイプで水を引くわさび田を作る
- 直販へのチャレンジ
- 春には花を摘む 花も産物に
- 谷あいには散在する昔のわさび田



活動の例

1 地域全体を知るツールとして

山里の聞き書き活動

2 みんなが一つになれる場として

食の文化祭

印南でもすでにやっている(明日を考える会)

例1 山里の聞き書き活動

地域全体を伝える・再認識する
ツール





百姓



料理



養豚



開拓



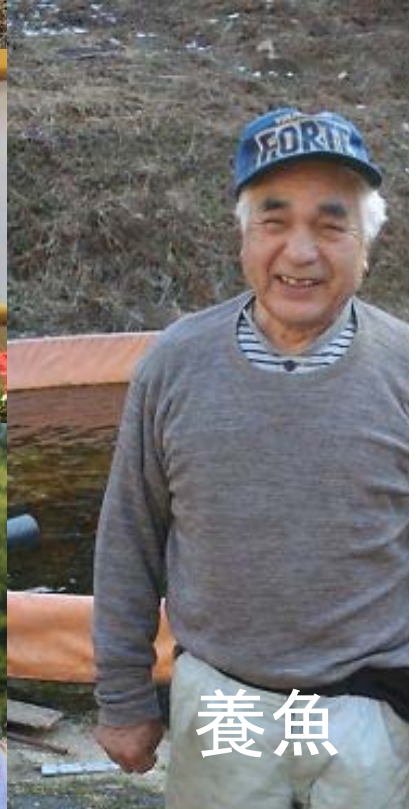
林業



猟師



映画館



養魚



酪農



木材卸売



物語に心を動かされたとき

〔聞き手〕

- ・ その人・地域のファンになる
- ・ 山村に学ぶツアーのコーディネーターを目指す人が出現
- ・ その後なんどもそこに通う人・家族で交流する人が多い
- ・ その地域で新しい活動を起こす人が出現

〔話し手〕

- ・ 自分と地域に自信を持つ
- ・ 家族にも尊敬される
- ・ 人に教えることを始める

〔地域の人〕

- ・ 地域をより深く知る
- ・ 地域のアイデンティティーを意識する
- ・ 地域の誇りを取り戻す

例2 長野県根羽村 食の文化祭



目指したこと

- 村の中で得られる自然資源(食べ物)を見直す
- 地域に根付いている「普通の」料理を改めて発掘する。
- 地域の人と同じ立場で一斉に集い楽しめる場を作る。

87品の出品



新鮮だった 山の獲物談義コーナー





新鮮な驚きと、次へのやる気

- 村民一人一人へ呼びかけ
(女性グループが窓口)



- 結果
 - ・ 来年もやりたい
 - ・ 村外の人に来てほしい、根羽をPRしたい
 - ・ 村外者に大好評なことに誇り



女性たちの自信につながる

次への展開

- 村外者を迎える行事で、お食事のおもてなしをみんなの手でする
- 2年目からは村民主導で行う
- お互いに学ぶためにレシピ集を作る
- 農産物を買うお客さんに料理法を伝える



NEBA COOK 里芋田楽 <small>でんごく</small>	NEBA COOK 里芋入りぼたもち
	
<p>里芋をカリッと揚げると崩れにくくなります。揚げたてが一番おいしく食べられます。</p> <p>❖材料 里芋 すりごま 油 調味料/赤みそ、砂糖、酒</p> <p>❖手順 ① 里芋は皮をむいてゆでる。楊枝が刺さる位に軟らかくになったら取り出し、布巾で水分を取る。 ② 片栗粉をつけて油で揚げる。 ③ 調味料を鍋に入れて煮沸かす。加減で少し水を入れる。 ④ 揚げた里芋にからめてすりごまをまぶす。</p> <p><small>© 長野県観光局</small></p>	<p>穫れたての里芋を混ぜて作る田舎のぼたもち。昔はお米が貴重で里芋を混ぜて量を増やしました。</p> <p>❖材料 米…1升 餅米…3合 里芋 小豆 きな粉 調味料/砂糖 塩少々</p> <p>❖手順 ① 炊飯釜に米ともち米を入れ、少し少なめに水加減する ② 皮をむいて3cmぐらいに切った里芋を米がかくれるぐらいの層並べて塩大さじ1を入れて炊き、すりごまで軽くつぶす ③ 小豆は煮て軟らかくになったら砂糖を加えて煮詰める ④ 手に水をつけてご飯を丸め、小豆あんときな粉をまぶす</p> <p><small>© 長野県観光局</small></p>

根羽村の例

さまざまな取り組みを 一つのテーマの下に行う

地域の誇りを取り戻し、地域の自治を作る

- 木の駅プロジェクト(地域の自治をつくる)
- 山里の聞き書き(地域の誇りをつくる)
- 食の文化祭(地域の資源を見直す)
- ドイツの村に学ぶ・交流する
- 根羽村ふあんくらぶ(ウェブサイト)でファンを作る
- 菜の駅(余った自家用野菜を都市住民に送り、応援団を作る)

自分たちで考えて動き始める&みんなでつながることで

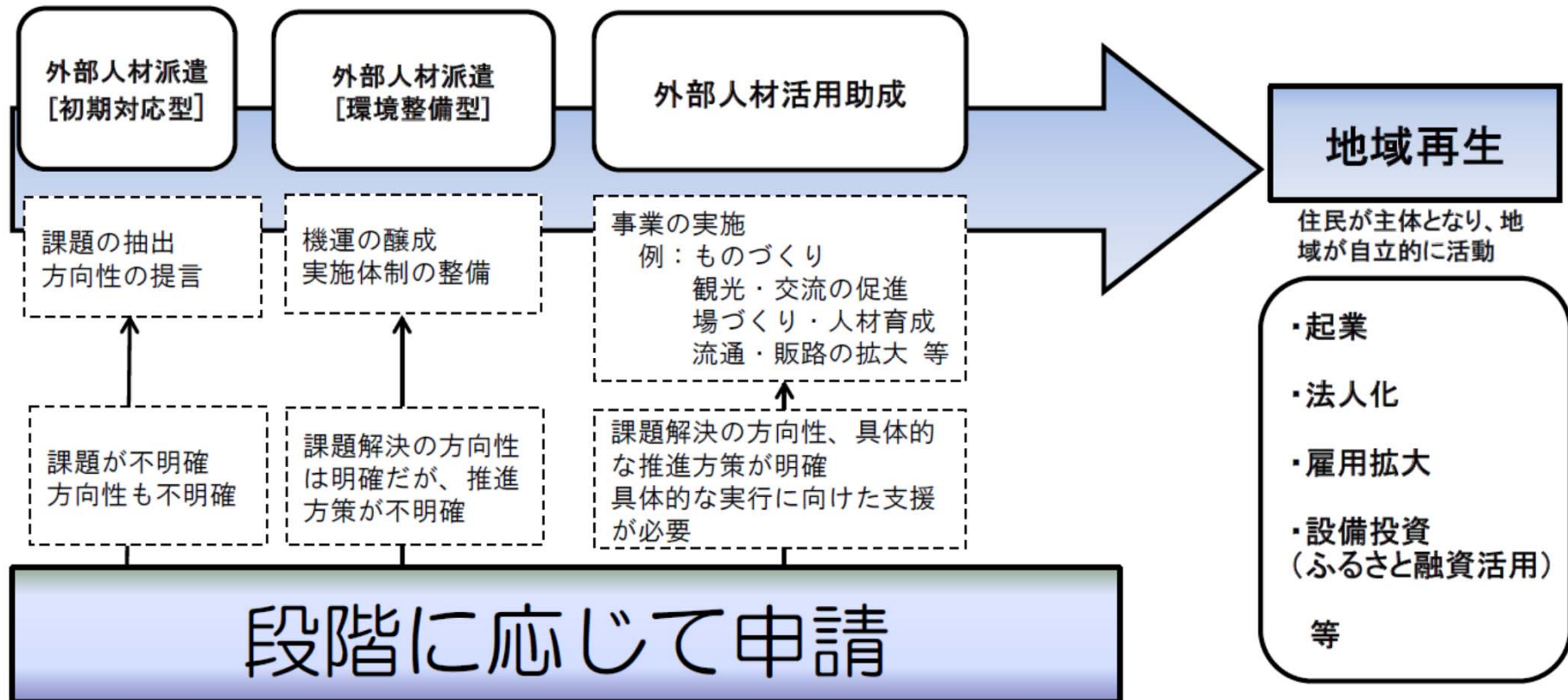
大きな力が生まれる

最後に・・・

ご参考資料

新・地域再生マネージャー事業

事業の概要



新・地域再生マネージャー事業

事業内容

(1) 外部人材派遣（環境整備型）

助成対象者	市町村(特別区を含む)
派遣内容	1件当たり1人(同一の者)6回まで、1回につき2日、最大12日間の派遣。
経費	外部人材の派遣に係る費用(旅費・謝金)について、原則として財団が負担し、外部人材へ直接支払う。(算定方法については、財団の規定によります。)
派遣実施期間	平成27年4月1日～平成28年2月20日
対象件数	5件程度
公募期間	平成27年1月9日～2月13日(財団必着)
留意事項	<p>①市町村は、都道府県を経由して、財団に申請してください。</p> <p>②派遣する外部人材は、原則市町村で選任してください。希望があれば、財団にて外部人材を紹介することも可能です。</p> <p>③1回につき2日と、派遣の時間が限られています。予め外部人材と十分に協議し、時間を有効に活用できるスケジュール調整を行ってください。</p> <p>また、外部人材がセミナー、ワークショップへの参加のみとなることのないよう、地域資源の現地調査や地域住民・団体へのヒアリング等を行うことができる時間も確保願います。</p>

新・地域再生マネージャー事業

事業内容

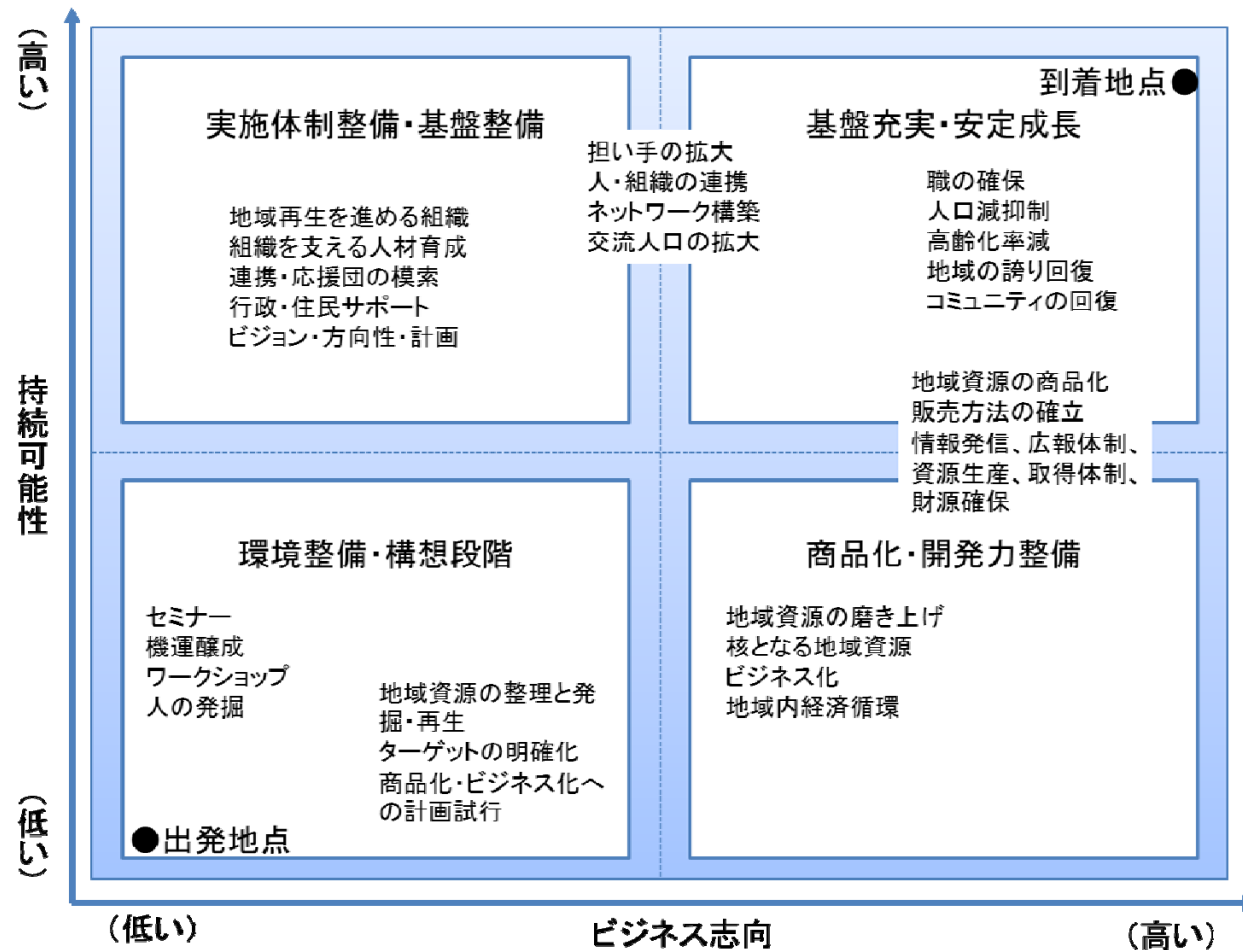
(2) 外部人材活用助成

助成対象者	市町村（特別区を含む）
助成金額	助成対象経費の2／3以内（上限700万円）
助成対象経費	①外部人材の派遣に関する経費（複数人材でも可能） 外部人材の人件費（謝金を含む。）、旅費 ②その他の経費 旅費、委託料、会議費、印刷製本費、広告宣伝費、原材料費、消耗品費、通信運搬費等（消費税及び地方消費税を含む。）
助成対象期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年2月20日
対象事業数	10件程度
公募期間	平成27年1月9日 ～ 2月13日（財団必着）
留意事項	①市町村は、都道府県を經由して、財団に申請してください。 ②期中の概算払いは行いません。 ③外部人材の派遣に関する経費は、助成対象経費の概ね半分以上に調整願います。 ④申請書は外部人材と協議のうえ作成してください。 ⑤派遣する外部人材は、原則市町村で選任してください。希望があれば財団において外部人材を紹介することも可能です。

新・地域再生マネージャー事業

事業の趣旨

(1) 地域再生の2軸・4象限



新・地域再生マネージャー事業

事業の趣旨

(2) 地域再生曲線

